

会議・打合せ記録

NO. 1

会議録	第6回 豊田市公共交通会議
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基幹公共交通社会実験について (2) 交通結節点の検討について (3) 地域路線の検討について (4) 公共交通利用促進策の検討について 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第7回豊田市公共交通会議の開催日程について 4. 閉会
日時	平成18年8月23日(水) 13:15~14:45
場所	豊田市役所 南庁舎5階 南51会議室
出席者	<p>【委員】 荻野 弘 (豊田工業高等専門学校)</p> <p>藪押 光市 (豊田商工会議所)</p> <p>野田 宏治 (豊田工業高等専門学校)</p> <p>山本 慎治 (豊田市区長会)</p> <p>正木 恒男 (豊田市老人クラブ連合会)</p> <p>新田 郁子 (豊田市消費者グループ連絡会)</p> <p>安藤 寿昭 (豊田市PTA連絡協議会)</p> <p>平岩 博 (豊田市社会福祉協議会) (代理: 江島)</p> <p>本田 吉広 (名古屋鉄道株式会社)</p> <p>梶原雅一郎 (愛知環状鉄道株式会社)</p> <p>鈴木 和洋 (名鉄バス株式会社)</p> <p>岸本 康典 (愛知県タクシー協会豊田支部) (代理: 牛田)</p> <p>田中 昇 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)</p> <p>福本 充 (国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所)</p> <p>下尾 強 (愛知県警察豊田警察署交通課) (代理: 八田)</p> <p>水谷 哲士 (愛知県交通政策課) (代理: 小野木)</p> <p>鈴木 實 (愛知県豊田加茂建設事務所維持管理課)</p> <p>大山 明夫 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所)</p> <p>小野田武文 (豊田市都市整備部)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資料	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次第・配席図 2. 資料1: 豊田市公共交通会議 第6回会議資料 3. 参考資料: バス利用推進社会実験ちらし

議事
概要

(1) 基幹公共交通社会実験について

(委員) 沿線住民アンケートについて、世帯のうちの誰を対象にするのか、またどのように尋ねるのか。中学生も含めるのか。

(事務局) 全対象世帯数は2万292世帯であるが、そのうちの1割から2割の世帯に配布する。対象としては、藤岡地区で中学生の利用が見込まれることから、中学生以上と考えている。各世帯に複数枚配布して、個人ごとに回答してもらう方式を考えている。

(委員) 広報活動について、ポケットサイズの時刻表をバス車内等で配布できるとよいのではないか。

(事務局) A5サイズの時刻表を作成し、チラシとともに配布している。車内での配布についても事業者と協力して実施したい。

(委員) 同じく広報に関して、FM放送などを利用するのはどうか。またアンケートで、バスに乗ったきっかけを聞けるとよいのでは。

(事務局) 8月の上旬に「エフエムとよた」で一度広報を行った。またアンケートにおいて、乗車理由も尋ねたいと考えている。

(委員) ポリウムのあるアンケートになりそうだが、回収率を高める方法については何か考えているか。

(事務局) 豊田市では過去にいくつかの交通関連のアンケートを実施しているが、どれも回収率は比較的高く、また、自由意見欄などへ積極的な記述をいただいている。もちろん回収率を上げることは重要であると考えているため、工夫したい。

(委員) アンケートの尋ね方として、「ある一日」における動きを尋ねた方が答えやすいのではないか。また、通常期(社会実験をしていない時期)におけるバスに対する感想等も尋ねられれば、比較ができてよいのではないか。

(委員) 「行き」と「帰り」の両方でアンケート調査票を受け取った場合にはどうすればよいか。

(事務局) 「行き」と「帰り」で質問項目を変えることも考えられるが、過去のアンケートでは、一度アンケート票を受け取った方は、受け取らないことが多い。また、今回の資料におけるアンケート案は最終案ではなく、具体的な尋ね方、解答欄を含めて調査票の案を作成し、委員の皆さまに調査票の案を郵送して、ご意見をいただきたい後に完成させたいと考えている。

(委員) 「利用者アンケート」と「沿線住民アンケート」の両方を受け取った場合のこともについても検討して頂きたい。

(委員) 社会実験自体の広報だけでなく、アンケートをする時期等についても周知するようにすることも検討してほしい。

(委員) アンケートの回収方法については、回収箱をバス車内に置くようにすると回答者にとって便利では。

(事務局) 回収箱の設置について、事業者と協力して進めていきたい。

(2) 交通結節点の検討について

(委員) 資料で示されている交通結節点のイメージは良いと考えるが、これからどのような方針で整備するのか。例えば、現状では結節点として求められる機能が満たされていない地点を整備する優先順位や、そもそも整備が可能かどうか等の検討についてはどのように考えているか。

(事務局) 今回は基本計画を策定する方針であり、交通結節点の基本的な考え方を整理することを主眼に置いている。今後、具体的な整備計画の策定の際に、場所の確定を行い、整備の方針を個々に検討する。

(委員) 今後、具体的な整備を進めるにあたって、事業者や行政の役割はどのようになるのか。

(事務局) 今回は、利用者の視点から、交通結節点として必要な機能を整理しているが、

議事
概要

- 今後、役割や手法等についても考え方をまとめたい。
- (委員) 各結節点候補地の現状について、トイレ等の有無を○×で表現しているが、○になっている箇所でも現状が十分というわけではないため、これで「良し」とせず、今後も機能の充実に努めていただきたい。
- (委員) 「交通結節点」と「地域拠点」という表現の違いが不明瞭で、やや分かりにくく感じる。
- (事務局) 計画をとりまとめるまでに、より良い表現・概念を整理したい。
- (委員) 「地域拠点」という表現は、「交通」よりも「まちづくり」の話ではないかと思われるので、どちらのことを言っているのかも含めて整理し、定義を明確にしてほしい。
- (委員) 「地域拠点」として位置付けられている箇所の中でも、整備の優先順位を示していくなどして、踏み込んだ実施計画も作ってほしい。
- (委員) 交通結節点を「複数の交通機関の結節場所」と考えるのであれば、基幹公共交通ネットワークを見る限り他にも結節点になりそうな地点があるのではないか。例えば、下山地区内における豊田方面と岡崎方面の分岐箇所などである。
- (事務局) 現況の利用状況で、ほとんど乗換えの無い箇所に関しては、今回の結節点候補地として抽出しなかった。

(3) 地域路線・公共交通利用促進策の検討について

- (委員) 地域路線の確保について、交通に対する意識の高くない地域では、なかなか地域が主体となった地域路線確保の取り組みが進みにくいと思われる。地域ごとに意識調査をして、消極的な地域には行政が積極的に介入することも必要なのでは。
- (事務局) 「地域リーダー」のような人がいる場合には、比較的スムーズに取り組みが進み、そうでない場合にはなかなか進まないということが考えられるため、検討が必要である。また、交通に関わる正確な情報の伝達を進めることで、地域における交通への意識を高めるようにすることも考えている。
- (委員) 先進的な事例はあるのか。
- (事務局) 豊田市内の事例になるが、高岡地区の「ふれあいバス」は、地域住民主体で計画され、2路線が運営されている。利用者および地域の満足度も高い。これ事例についても参考として他地域に広めていきたい。他にも四日市市や豊根村などの先進事例がある。
- (委員) 高岡の事例では、事業主体等はどうなっているのか。
- (事務局) 計画等は地域が主体となって行い、交通事業者がバスを運行している。
- (委員) 他にも参考となる事例があれば参考にしつつ、また、社会実験の結果も踏まえて、これらの施策を進めていただきたい。

◆その他

- (事務局) 次回の第7回豊田市公共交通会議については、12月14日(木)13:30から、今回と同じ南51会議室にて開催予定である。

【問い合わせ先等】

豊田市 都市整備部 交通政策課 公共交通計画担当
 電話：(0565)34-6603
 FAX：(0565)33-2433
 e-mail：koutsu@city.toyota.aichi.jp